



会期: 2019年4月18日(木)~4月21日(日)
会場: 東京国際フォーラム
主なプログラム

招待講演1: Prof. Roger W Beuerman (Singapore Eye Research Institute)
「Infectious Keratitis: New approaches to diagnosis and treatment」

招待講演2: Prof. Mark S. Humayun (University of Southern California)
「Advanced Implants for Retinal Diseases」

特別講演1: 小橋 祐一郎(名古屋市大)
「網脈絡膜の生体イメージングー基礎から臨床、そして人工知能へ」

特別講演2: 井上 幸次(鳥取大)
「眼感染症への取り組み〜基礎から臨床まで〜」

評議員会指名講演 「難治性眼疾患への挑戦」

1. 雑賀司珠也 先生(和歌山県医大)
2. 蕪城 俊克 先生(東京大)
3. 角田 和繁 先生(東京医療センター)

会長幹シンプोजウム
AIとビッグデータがもたらす眼科医療の将来
デジタル支援の眼科手術

市民公開講座「視覚治療の最前線」(4月21日開催)
山本 修一 先生(千葉大)
根岸 一乃 先生(慶應大)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 55
Fall
2018

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆ 学内講師就任の挨拶(松木奈央子)<1-2> ◆ SNSアカウントのご案内<3>
- ◆ 水晶体・白内障のトピックス(久須見有美)<2-3> ◆ 第123回日本眼科学会総会のご案内<4>
- ◆ 新入局員の挨拶(永原由佳)<3> ◆ イベント情報<4>
- ◆ Shiramizu先生からのレター<3> ◆ 編集部からのコメント<4>

<執筆者: 括弧に明記 production: 渡邊交世、津田麻祐子、仲島みずぎ>

学内講師就任の挨拶(松木奈央子)



本年4月より学内講師を拝命致しました松木奈央子と申します。

私は1999年杏林大学医学部を卒業後、同年杏林大学眼科に入局致しました。ちょうど1月に杏林アイセンターが開設したばかりで、当時は教授が藤原先生と樋田先生、助教授が平形先生、講師が永本先生と岡田先生のスタッフと多数のフェローの医師が在籍し、毎年10人もの研修医が眼科に入局するような時代でした。そのため学年の近い先生から直接勉強や手技をご指導いただける研修医にとってはよい環境で、例えば当直で眼瞼裂傷が来院すれば眼瞼縫合を、急性緑内障発作なら緊急Iを教わり、CRAOなら緊急FAを自分で撮影し、さらに角膜穿孔や眼球破裂などの外傷が来院すれば緊急手術の助手に入ることもしばしばで、その当時は大変でしたが有意義な研修時代だったように思われます。

大学での2年間の研修後は同窓の馬詰眼科に2年間出向させて頂き、その後大学に帰室してからは永本先生のご指導のもと水晶体班として学ぶようになりました。特に一つ一つの手技の動き全てが理論に基づく永本先生の白内障手術は非常に感銘をうけました。みずから執刀医として手術を行いながら、学会発表、外来臨床など研鑽を積んでいた頃、2006-2011年に公立阿伎留医療センターへ医長として赴任致しました。運悪く病院の引っ越しや電子カルテの導入のイベントに遭遇してしまい、病院の経営も考えなければならず責任も大きくなり、コメディカルや他科と協力連携しながら日々を過ごしました。その中で多くの白内障手術を行うことができ、どんな症例でも最後まで一人でやりとげる気力が培われた気がします。

2011年から大学に帰室した後、現在は私、渡邊先生、久須見先生ら水晶体班のメンバーと白内障手術を行っています。現診療科長である井上先生からは海外の学会の発表や、さらに学位論文のご指導を頂き、昨年、強膜内固定された眼内レンズの高次収差の変化についてのテーマで博士号を取得させて頂きました。私にとって慣れない研究や論文の指導には大層難儀したに違いありませんが、根気強く指導して頂いた井上先生、そして永本先生、平形先生には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

イベント情報

<第10回東京多摩眼科連携セミナー>

2019年5月11日(土) 14:30~17:00 場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「神経内科関連(仮題)」 千葉 厚郎 先生(杏林大学医学部神経内科学教室 教授)

<11th Eye Center Summit>

2019年6月1日(土) 17:30~20:00(予定)

場所: 丸ビルホール&コンファレンススクエア 7F「丸ビルホール」

会費: 2,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

特別講演1: 「前眼部疾患について(仮)」相原 一 先生(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻眼科学 教授)

特別講演2: 「後眼部疾患について(仮)」五味 文 先生(兵庫医科大学 眼科学講座 主任教授)

編集部からのコメント

本年は多数の新入局員を迎え、彼らは永本客員教授の教えを継承する水晶体班の下で眼科手術の柱である白内障手術を学んでいます。そのディレクターを務める松木先生が講師となり、さらに初めての女性医局長として皆を牽引しています。どうぞよろしくお祈りします。また、現在の働き方改革で、大学の当直体制なども変更しなくてはならず、ご紹介いただく先生方にもご迷惑をおかけしていますが、大学病院の特徴を生かせる病診連携の改善に努めますので、ご高配のほどよろしくお祈りします。

現在の業務の中核はやはり手術です。浅前房、角膜内皮障害例、角膜混濁、チン小帯脆弱、強度近視、固い核といった難症例の白内障や、最近では専門外来からのぶどう膜炎に伴う併発白内障、加齢黄斑変性症に対して硝子体注射後の症例などがめだって見られます。診断には前眼部OCTが有用で前房深度や角膜厚や水晶体厚が術前に以前と比べて容易に診断することが可能となり手術適応に迷うことが少なくなりました。認知症や精神発達遅滞、発達白内障などは全身麻酔下での手術も必要となることもあり麻酔科や循環器科や呼吸器科に依頼し、時に病棟看護師長に入院そのものが可能かどうか悩むこともあります。

また5年前から医局長の役職も拝命し、外来医長と病棟医長と共に医局内外の様々な出来事に耳を傾けてより学び易く・働き易い環境を心がけるよう尽力しています。最近では労働基準監督署より医師の超過労働時間への指導があったことが大きな波紋を広げていて、研修医の教育のレベルを維持しながら働かなければなりません。ともによく学び快適に働き、かつ大学病院として地域医療に少しでも役にたてるよう日々努力する所存ですので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。最後に尊敬するスタッフの先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようしくお願ひ申し上げます。

略歴

- 1999年 杏林大学医学部卒業 同眼科学教室入局
- 2001年 医療法人社団柿木会 馬詰眼科
- 2003年 杏林大学眼科学教室 臨床専攻医
- 2006年 公立阿伎留医療センター 眼科医長
- 2012年 杏林大学眼科学教室 助教
- 2018年 杏林大学眼科学教室 学内講師

水晶体・白内障班のトピックス(久須見有美)

最近では抗VEGF薬の硝子体内注射の適応が広がり、投与を行う機会が増えています。硝子体内注射の合併症のひとつに白内障があることから、加齢黄斑変性に対する硝子体内注射後の白内障手術における術中合併症について調査しました。

60歳以上の白内障手術症例を加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬硝子体内注射を受けていた症例(注射群)と硝子体内注射を受けていない症例(control群)に分けて、比較検討しました。術前所見では注射群において後囊下白内障の程度が強く、術中後囊破損(PCR)により硝子体手術を必要とした症例はcontrol群では1%であったのに対し、注射群では7%と有意に高率でした。写真に示すような硝子体内注射の刺入部に一致した後囊下混濁を認める症例もあり、刺入時の水晶体損傷が示唆されました(図1)。注射群においてPCRの有無で比較したところ、注射回数や白内障の程度に有意差はありませんでした。(表1)

図1:注射群:術中PCR症例
左眼PCVに対して抗VEGF薬硝子体内注射計30回施行



硝子体内注射時の刺入部(10-11時)に後囊下混濁を認めた

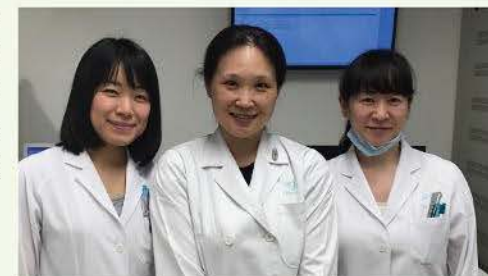
表1:注射群のPCR有無での比較

注射群	PCRあり	PCRなし	P値
症例数	4例 4眼 (7%)	44例 50眼 (93%)	-
右/左	1/3	21/29	0.46*
年齢	78.8 ± 8.3	81.0 ± 6.7	0.30*
平均注射回数	29.0 ± 6.6 (24~38)	26.5 ± 14.1 (3~55)	0.49*
核白内障	2.0 ± 0.0	2.3 ± 0.5	0.30 [†]
後囊下白内障	2.0 ± 0.0	1.5 ± 1.3	0.62 [†]

* Fisher直接確率 † Mann-WhitneyのU検定

今後も硝子体内注射後に白内障手術を行う症例数は増加すると思われます。硝子体内注射時の水晶体損傷に注意することはもちろん大切ですが、硝子体内注射の既往のある症例での白内障手術には、慎重な術前診察とPCRのリスクを念頭においた手術計画をたてるようにする必要があります。

*上記については、2017年日本臨床眼科学会および2018年ESCRSにて報告発表しております。



久須見有美助教、松木奈央子学内講師、渡邊交世講師

新入局員の挨拶(永原由佳)



初めまして。今年から入局させていただいた永原由佳と申します。4月より若葉眼科で診療しております。出身大学は東京女子医科大学です。初期研修は東邦大学大森病院で履修し、昨年まで同病院眼科に所属しておりました。未熟者ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

Shiramizu 先生からのレター



平形教授、岡田教授、Shiramizu 先生

My name is Kevin Masahiro Shiramizu, and I am a Japanese-American vitreo-retinal surgeon in Los Angeles. 18 years ago, I came as an intern to study at Kyorin Eye Center with Professor Hida, Dr. Hirakata, and Dr. Okada. I had a wonderful time at that time, and when the opportunity came up to observe for three months in Japan, I contacted Kyorin Eye Center again.

Professor Hirakata and Professor Okada kindly accepted me and arranged a program to observe at Kyorin for one month and then observe at three other hospitals in Japan. It was so great to be back at Kyorin Eye Center again. It was incredible to see all of the cutting-edge technology being used at

Kyorin Eye Center from the advanced surgical techniques such as head's up surgery to the imaging technology such as swept source OCT and OCT angiography.

I was impressed by all of the conferences and meetings, and honored to be allowed to participate in the Foursome Meeting led by Kyorin faculty.

Thank you very much to everyone at Kyorin Eye Center for welcoming me and allowing me to observe in the clinic and in surgery. I had an amazing experience in Japan rotating at Kyorin Eye Center, Tokyo Women's Medical University, Nihon University Hospital Surugadai, and Yokohama City University Medical Center. I look forward to seeing everyone again.

SNS アカウントのご案内

杏林アイセンターでは公式ホームページの他に、カンファレンスのご案内や学会参加報告などの情報をtwitterとFacebookで発信しております。SNSをご利用の方は、ぜひ「いいね」「フォロー」をお願いします。

公式ホームページ
<http://www.eye-center.org/>

twitter ユーザー名 @KyorinEyeCenter
<https://twitter.com/KyorinEyeCenter>

Facebook 杏林大学医学部眼科学教室
<https://www.facebook.com/kyorin.eyecenter/>



公式 HP



Twitter



Facebook